

図書館リテラシー教育と学生の反応

｜ 「図書館活用法」の実践から ｜

大野 友和^E

1 はじめに

明治大学では、2000年4月から、文系の学生を対象とした図書館の有効利用や学術情報リテラシー教育を内容とした「図書館活用法」を開講した。大学は、図書館の蔵書や施設の充実のために相当額の経費を充当し、様々な、図書館機能向上策を図っている。これに対して、図書館利用者、特に学部学生があまりにも図書館の利用法を理解していない、ということが現場の実感であった。また、図書館利用教育の必要性や資料有効活用教育の立遅れやその必要性は多くの識者から指摘されてきたところである。この要因は、暗記主体の「つめ込み」教育からくる弊害、小中高等学校のいわゆる学校図書館施策の貧困さからくるものとの見方もあるが、現代学生の図書館活用能力の低さは想像以上である。

これらの状況を捉え、図書館利用教育が大学生活を送る学生への導入教育のひとつとして極めて重要であるとの認識から「図書館活用法」がスタートしたのである。「図書館活用法」の狙いや情報リテラシー教育の必要性、及び「図書館活用法」の授業の詳細な内容等については、本誌第6号(2002年3月刊)で、前図書館副館長斎藤哲政経学部教授が詳細な論考を発表しているので、そちらに譲りたい。ここでは、図書館職員として、私たちが何を意図して図書館リテラシー教育を推進してきたかを述べ、また、それに学生がどのように考え、どのような評価をしているかについて

^Eおおの・ともかず / 図書館庶務課長

報告していきたい。当講座の評価としての学生からの意見・感想文は最後にまとめて掲載してあるのでご参照願いたい。

2 リテラシー教育の重要性

図書館の運用を預かる者としては、現在を生きる学生等の利用者に対し、図書館を魅力ある場所として、図書館を利用していただくよう環境を整えることが大きな責務であると思っている。魅力的な環境整備とは、単に建物をリフレッシュすることばかりではなく図書館を利用しやすくするという、いわばソフト面での整備も重要なことである。例えば、蔵書数200万冊を数える本学図書館の蔵書の中から、利用者が求める一冊の本を迅速・的確に入手するためには、相当の知識とテクニックが必要なのである。多くの図書館は利用者に、それに対応する十分な知識と適切なテクニックを習得してもらうべく、様々な学習の機会を提供している。本学図書館でも、図書館利用リテラシー教育として、多種多様なプログラムがある。¹⁾

国内の大学図書館は、実に多様な図書館利用のためのガイダンスやリテラシー教育を行っている。

以下はその例である。

大学名	講座名
三重大学	学術情報リテラシー
琉球大学	図書館情報リテラシー (Library workshop program)
東京工業大学	コンピューターリテラシー
千葉大学	キャンパス情報リテラシー
富山大学	大学生の情報リテラシー
徳島大学	これならできる情報リテラシー
山口大学	情報リテラシー
東京学芸大学	情報リテラシー
京都大学	情報探索入門
慶応義塾大学	情報リテラシープログラム
駿河台大学	資料探索法 (文化情報学部)

リテラシー教育の内容としては、これまでは印刷媒体、つまり図書を中心とした資料の探し方などが主であった。近年は資料のデジタル化が進む

¹⁾拙稿 本誌1号「図書館サービスとしての図書館利用教育」

に従い、パソコンを使いインターネットにより提供される情報の入手方法、CD-ROM資料の検索等、電子情報に対する情報リテラシー教育の比重が増加している。当然各大学図書館等が実施する、リテラシー教育の講座名にも「情報」「web検索」「二次情報データベース」「電子メディア活用」などの、キーワードが並んでいる。これだけ電子情報が氾濫してくると、いわゆる「情報弱者」を生まないためにも従来の情報処理教育だけではなく、図書館が実例に添った形の具体的な指導を行う必要が生じてくるのは、けだし尤もなことである。

3 「図書館活用法」について

「図書館活用法」は、本学学生なら誰でも履修できる「学部間共通総合講座」の中に置かれ、半期(12~14回の授業)完了型で、2単位の卒業要件の単位が取得できるものである。講師は本学の専任教員数名と本学図書館職員数名が1~2回の講義を担当するものである。一般に図書館職員が無条件に単位取得できる授業を担当することはできないが、この「学部間共通総合講座」においては、「広く内外の人材においでいただく」という観点から、担当講師の任用資格は比較的緩やかである。従って、図書館職員も一定の実務経験を積んでいれば、「学部間共通総合講座運営委員会」の承認を得て、授業担当有資格者となる。勿論本学の専任教員は有資格者であることは言うまでもない。これら専任教員と授業担当有資格の職員がカリキュラムに従い交互に授業を担当していくのである。

2002年度は前期に駿河台キャンパスで、後期は和泉キャンパスで講義を行った。駿河台キャンパスでの受講生数は236人、和泉キャンパスでの受講生数は201人であった。受講生からはパソコンを使った実習を多くやりたいという強い要望があるが、前掲斎藤論文でも触れている通り、物理的な面で、内容の濃い実習はできないのが実情である。今後の大きな課題である。

2002年度の駿河台、和泉各キャンパスで開講した図書館活用法のカリキュラム及び担当者は表1、2の通りである。2002年度は12回の講義と最後にレポート課題の提出を求め、学生個々のレポート内容と出席数を勘案

してコーディネーターである木谷光宏副館長(政経学部教授)が単位認定を行った。

この「学部間共通総合講座『図書館活用法』」の特徴は、

- ① 図書館が責任を持つ講座(副館長がコーディネーター)であること
- ② 教員と図書館職員がそれぞれの専門分野、あるいは得意の分野のテーマを講義すること
- ③ 取得した単位(2単位)は、卒業に必要な単位として認定される

であるが、これらは他大学にはない本学特有の図書館利用リテラシー教育講座である。

4 図書館活用法受講者の反応

私は2001年度と2002年度、駿河台、和泉両キャンパスで開講した「図書館活用法」のそれぞれ最後の授業1コマを担当させて頂いた。授業の終わりに「図書館活用法」全体の印象、改善すべき点、良かった点、悪かった点及び自由な意見などを聞いてみた。それらをまとめたものをこの稿の最後に掲出している。

現代の学生は、一般的に図書館の存在意義、図書館の役割に対する認識が極めて希薄であり、図書資料をじっくり探す、そしてそれを活用していくという能力が育まれていないことが感じられる。まして論文をまとめるプロセスについての予備知識も欠如している。どちらかという、図書館は単なる自学自習の場で、図書資料も形式的に一定程度置いてあるだけの施設であるという誤解は、残念ながら案外多くの学生の共通認識であるようだ。この原因はある意味では初・中等、高等教育段階における図書館教育の貧困さに起因することかもしれないが、このことは大学における教育目標実現のためには極めて由々しいことである。更に、図書館利用を前提としないような大学教育、学生が図書館の利用を必要としない授業が圧倒的に多い現実にも、その要因があると思われる。図書館に身を置く者として、そのような現実にとただ嘆息しているだけでは、無責任という謗りを受けるだけであろう。そこで1998～1999年当時の図書館スタッフ間で図書

館利用教育の重要性を説き、学内各方面に図書館活用法の開講を強く要請したのであった。その結果として2000年から図書館活用法が開講の運びとなった。その意味で、当時の本学教学責任者が、学生の導入教育として学生に対し、図書館活用能力を高める教育をすることは重要であるという認識を持ち、図書館活用法を開講したことは特筆すべきことであった。

5 今後の課題

充実した学生生活のために、学生個々人が適切な図書館利用法、情報活用能力を高めることは重要である。また、生涯教育の時代と言われる今日、資料探索や情報検索術の基礎知識の習得は重要なことである。

「図書館活用法」を更に発展させるための反省としては、学生の意見に散見できるように、情報検索、OPAC等の効果的利用法などの実習を多く取り入れる授業を増加させなければならないことがある。そのためには、パソコン、インターネットなどの環境を整える必要がある。駿河台キャンパスはまだしも、和泉キャンパスの環境整備は急務である。駿河台キャンパスにおいてもインターネット環境は整っているが、パソコンの手配や、教室でのパソコン設置、時間内にそれを撤収する作業等があると瞬く間に時間が過ぎてしまう。内容の濃い授業を行うためには、学生自らがパソコンを持って、授業に臨む体制を早急に作らなければならないだろう。

また、講師が毎回異なるということは、目新しさがあつてよい反面、内容が重複することがある。事前打合せを密にして、せめて図書館職員が行う授業だけは、授業内容のオーバーラップは可能な限り回避するよう調整をしていきたい。

2003年度から、コーディネーター木谷副館長のご尽力で生田キャンパスで図書館活用法を開講することとなった。これで明治大学の全てのキャンパスで図書館活用法が開講の運びとなった。理工学部・農学部の学生を対象とするのでそれに添ったカリキュラムを木谷副館長が作成した。期待に添うよう担当者にご尽力いただかなくてはならない。

図書館職員は教員ではないので、必ずしも教授術がすぐれているわけではない。しかし、図書館職員が教壇に立つことは、図書館での実務経験

を生かして学生に説明するので有用なことが多いと思われる。また、図書館職員自信が貴重な経験をつむと言う面からも意義多いことと見えよう。可能な限り図書館職員に、特に若い職員に機会を与え、経験を蓄積してもらいたいと考えている。そのことは、図書館職員のスキルアップに繋がるし、ひいては図書館全体のサービス向上に繋がると考えるからである。

表1 2002年度 総合講座授業日程

講座名		図書館活用法 I	
開催地区名	駿河台	開講区分	前期
授業曜日・時限	月曜日 3時限目		
コーディネーター	政経学部教授	氏名	木谷 光宏
月・日	テーマ	2002年担当者	
1	4月15日	大学図書館への招待	木谷光宏(副館長,政経学部)
2	4月22日	図書館の情報サービス機能	浮塚利夫(総合サービス課)
3	5月13日	参考図書の利用	高橋美子(総合サービス課)
4	5月20日	雑誌記事の探し方	中村正也(和泉図書課)
5	5月27日	新聞記事の探し方	中村正也(和泉図書課)
6	6月3日	図書目録検索システム(1)	中林雅士(図書館庶務課)
7	6月10日	図書目録検索システム(2)	中林雅士(図書館庶務課)
8	6月17日	インターネット情報とその利用法(1)	菊池亮一(図書館庶務課)
9	6月24日	インターネット情報とその利用法(2)	久保木和義(図書館庶務課)
10	7月1日	インターネット情報とその利用法(3)	久保木和義(図書館庶務課)
11	7月8日	データベースの利用	井田正道(政経学部助教授)
12	7月15日	情報検索とこれからの図書館	大野友和(図書館庶務課)

表2 2002年度 総合講座授業日程

講座名		図書館活用法 II	
開催地区名	和泉	開講区分	後期
授業曜日・時限	金曜日 3時限目		
コーディネーター	政経学部教授	氏名	木谷 光宏
月・日	テーマ	2002年担当者	
1	9月27日	大学図書館への招待	木谷光宏(副館長,政経学部)
2	10月4日	図書館とわたし(1)	山岸智子(政経学部助教授)
3	10月11日	図書館とわたし(2)	薩摩秀登(経営学部教授)
4	10月18日	図書館とわたし(3)	林みどり(政経学部講師)
5	10月25日	図書館で何ができるか {どのような種類の資料があるか}	浮塚利夫(総合サービス課)
6	11月8日	図書の探し方 {あなたは本を探す時どのように探していますか}	梅田順一(総合サービス課)
7	11月15日	文献と情報の所在をつきとめる(1)	菊池千香子(和泉図書課)
8	11月22日	文献と情報の所在をつきとめる(2)	柴尾晋(和泉図書課)
9	11月29日	図書館目録検索システム	菊池亮一(図書館庶務課)
10	12月6日	データベースの利用法	梅田順一(総合サービス課)
11	12月13日	情報の広がりレポートのまとめ方	梅本亨(文学部教授)
12	12月20日	情報検索とこれからの図書館	大野友和(図書館庶務課)

「図書館活用法Ⅰ・Ⅱ」受講生の授業に対する意見・感想(抜粋)

[2002年度 前期 駿河台キャンパス]

今まで色々な目的で図書館を活用してきた。しかし、この授業を受けて思ったことはその利用価値をもっと活かせるということだ。OPACなり、山手線コンソーシアムなり、この授業を受けなければ聞くことも使うこともなかっただろう。これからは、この授業で学んだことを積極的に活かしていきたい。(文学部4年 S)

今日の講義は、自分の「図書館」に対するイメージを変えるものでした。それは、いい意味で変わったのであり、学生である限り、大いに利用するのが特権である、と同時に書庫の開放はありがたいことだと思った。残り少ない学生生活だが、卒論研究などで足繁く図書館に通いたい。(文学部4年 S)

図書館は第一にまず、自分で足を運ぶことが大事であり、そして、その集大成としてこの講義を受けることが一番良い。そして、本に囲まれているということは、自分と向き合うための究極の物に囲まれていると言っても過言ではない。この講義を通じて、自分と向き合う機会ができたとしても良い事である。(文学部3年 T)

前期のみの「図書館活用法」でしたが、非常にためになるようなお話がありました。大学に4年間も在籍していながら知らなかったこと、図書の検索や利用できるサービスがありました。今後に活かして行こうと思います。教室が狭かった事が唯一の不満です。(文学部4年 A)

パソコンを使った授業をもっとやって欲しかった。人数が多くて仕方がないかも知れないが・・・。ただ、明治大学図書館の有効的な使い方を知ることができたし、レジュメももらったのでこれからそれらを参考に図書館の活用、論文の制作をしていきたい。(短大1年 K)

今日の授業を受け改めて、自分のおかれ

ている環境(特に文献に関して)が、かなり恵まれた中にあることを実感しました。また、最後に言及されたように、この明治大学の立地は変えがたい財産であると私も感じております。卒業後も利用できるというのは力強くうれしいです。私も、機能・デザイン共にすごく気に入っていて、特にロダン・ルームには足繁く通っています。授業全体を通して、コンピューターを使った授業は、時間、手間がかなりかかっている割に余り効率的でない気がしました。(経営学部3年 T)

この「図書館活用法」はとても面白かったです。毎回先生が違い、先生が毎回きれいにまとまったプリントを配布してくれるので、それがとても良かったです。パソコンがうまく受講者全員に回らなかったのが残念でした。また、受講者が多くてうるさくなるのはとても残念でした。(文学部3年 N)

半期全講義に参加させてもらいましたが、その中でもパソコンを使ったインターネット検索等の実習は非常に実用性を感じ、楽しんで行うことができました。他の授業にもこのような工夫が欲しいものです。(法学部3年 K)

明治大学図書館への理解が深まった。これまで以上に色々と利用してみたいと思った。図書館というのはすごいと思った。(文学部4年 S)

「図書館活用法」を通してだが、やはり実習の形を期待している方も多かったはずと思う。それをパソコンが足りないからといって、実習形式でなくしてしまうのはどうかと思ったこともあった。ただし、講師の方々が毎回毎回スライドを作ってきてくださるこの授業の形式はすごく好きだった。私は半期で卒業になるが、最後にこの授業を履修できて良かったと思っている。(法学部4年 M)

「図書館活用法」を受講して感じたのは、授業に一貫性があまり感じられないということである。第12講である今回の授業は、本来な

らは最初の方に来るべきものではないだろうが。毎回先生が変わるのであるが、その回の最後に次回の予告とは言わないが先生の名前やその所属等を書いて欲しい。(法学部4年 A)

学生がコンピューターを使いながらの授業がいくつかあったが、それは学生が実際にパソコンを使いながら学習することを体験できるので画期的だと思ったが、準備に時間がかかり、パスワード等がなかなか学生に伝わらないが多かったのでそれらをなくすようにすれば、もっと内容の濃い授業になったと思う。あと、学生の人数に対して教室が小さく通路に座っている人がいるので、もっと大きな教室で授業を行うべきだと思う。今日の授業では、外国の図書館にも紹介状を書く、というところが興味深かった。夏休みにシアトルとネブラスカに行くので、ぜひその土地の図書館に行ってみたいと思いました。(文学部3年 T)

パソコンで様々な情報を得たいと思っていたのでこの授業を受け、図書館の有効な使い方を知ることができて本当にためになりました。これからは、就職活動などでたくさんパソコンを用いると思うので、ぜひ、授業で聞いたことを実際に活かしていきたいと思っています。ありがとうございます。(法学部3年 M)

「図書館活用法」はいつも、情報化社会的な話が多かったのですが、今日は貴重資料などの文化的・歴史的な話を聞いてよかったと思います。私は大学に入ってからよく図書館を活用していますが、今まで知らなかった資料収集法が良く分かりました。それと同時に自分自身ももっと動かなくてはいけないと思いました。これからこの「図書館活用法」で学んだことを卒論などで上手く活かしたいと思います。(文学部3年 U)

前期計12回の授業を受けて、全く知らなかった図書館の機能や資料の調べ方を知ることができたので、非常に有意義だと感じました。ただ、数回にわたったインターネットでの検索の仕方では、難しい単語があり理解するのが大変でした。インターネット検索での資料がもう少し欲しかったです。(経営学部3年 N)

もう少し実地を取り入れた方がよいと思います。言葉で説明されるだけだと、すぐ忘れてしまうので。図書館の役割って今まであまり考えたことがなかったけれど、ただ本を買って貸すだけじゃないことが良く分かった。この授業でいくら図書館の使い方が上手くなれたかと思う。特に、資料記事の探し方などは、図書館ツアーなどだけでは絶対分からないと思うので。(短大1年 N)

「図書館活用法」を今まで受けてきましたが、図書館での使い方を今まで全く知らなかったのが、この授業で色々教えていただきました。特にパソコンを使った実習授業は実際にやってみるという点でもものすごく印象に残っています。できることなら、こうした実習をまじえての授業が一番いいように思います。(法学部3年 I)

今日の授業を聞いて、図書館に対する意識が変わった。大学同士の利用をすれば千万冊以上あるというのは、驚きだった。紙の歴史と文化は趣深かったが、明治大学のギャラリーにもパピルスや象形文字があるということは知らなかった。これからも図書館を上手に利用したいと思った。現代の印刷の発展・進歩で情報の整理が難しくなったと思う。(法学部3年 A)

明治大学図書館にパピルス等が置いてあるとは知らなかった。私は2年前の夏にエジプトへ行った。その時、お土産としてパピルスを買ったのだが、それと見比べてみたいと思った。最近、私は和泉図書館で「地球の歩き方」を読んでいる。いろんな国へ行ってみたい、そんな欲求を満たすのではなく、より高められている。しかし、和泉図書館は暗くなんとなくジメジメした雰囲気なのである。将来は新しくなるとのことだが、もっと早く何とかして欲しかった。(経営学部4年 H)

私は普段あまり図書館を利用したことがなかったのですが、先生のお話を聞いてもっと利用したくなりました。書庫にも行ってみたいです。神田や神保町の古本屋街がこんなに近くにあるのに、今まで全く行かなかったことに後悔しています。これからは、この恵まれた環境をもっと活用したいです。(経営学部3年 H)

今のように印刷技術がなかった時代は、今以上に頭と身の辺にあるもので表現する技術があったことがわかった。葉を使ったり石を彫ったりするのはすごいアイデアだと思ひ、現物を目の前で見てみたいとも思う。OPACやその他の検索方法の仕方が前期間で学べてよかった。後期は取ることができなかったけれど必要なものが聞け、他の授業で既に活用できたので、とても満足しています。検索エンジンを使用したのは初めてで、その後何回か使用したけれど、もっと工夫した使い方により有意義に活用できるようにしようと思う。(短大1年 M)

「図書館活用法」の講義は、主に明治大学図書館の職員の方による授業であって、普段では拝聴することができない内容ばかりであったので、大変参考になりました。私自身、4年生ということで卒業論文を仕上げなくてはなりません。明治大学で4年間勉強したことの集大成となるものにする為に、本講義の内容を活用していければと思います。お忙しい中、私達の為に貴重な講義をしてくださいます心から感謝します。(経営学部4年 S)

身近にある明治大学図書館が、実は、とても素晴らしいものだを知った。もっと頻りに図書館に通おうと思った。また、他の図書館にも行けるという事は興味深かった。自分の求めている本を探せないことがあったが、これからは司書さん達を頼ろうと思った。(文学部3年 S)

図書館の運営費に莫大なお金が使われているということにとっても驚かされました。これだけのお金が使われているとなると損だと思ふので更に図書館を活用していきたいと思いました。「図書館活用法」の授業では、パソコンを使っての多くの実習をやったことがとても為になったので、実習をやることはとてもいい事だと思いました。(法学部4年 N)

全体の講義に対してだが、広い教室のほうが良いと思つた。電子図書館の利用方法について、私は今年4年なので卒論という最後の課題を乗り越えるため、参考になった。欲をいえば、もう少し時間をかけ、色々な例を挙げて「レファレンスブックの利用法」なども説明して欲しかった。(文学部4年 T)

前期を通して、私が今まで知らずにいた知識を得ることができ、効果的かつ便利に文献等を検索できるようになりました。図書館で早速、実習で行ったことを実践し、直接活用できることを学べて大変良かったと思ひます。これから、色々役立つことが身につけられた講義でした。4年時のレポート作成、また就職後にもこの講義で習得したことを活かしていきたいと思ひます。(文学部3年 M)

今まで図書館は、主に勉強のできる静かな空間としてだけの機能を使用していました。が、この講義によって図書館のその他の魅力を発見できたと思ひます。自分の知りたい情報を図書を活用して知るだけでなくその図書の歴史や本の海を感じることで、勉強意欲を高められることを今回の授業で知りました。(法学部3年 Y)

この授業に出て、最近図書館を利用していないのを実感しました。久しぶりに地域の図書館を利用してみたくなりました。(法学部3年 S)

ギャラリーに展示してあるものがそんなに高価であるとは知らず、非常に驚きました。注意してみたいと思ひます。授業に関しては特に実習の授業は改善の余地があると思ひます。PCの数に限界があるのなら「Oh-Meiji」に対応させて家やその他の場所から後日できるような手段もできると思ひます。全体としてやる気のない学生が多く見られますが、関心・興味を持って授業に臨んでいる者もいるので改善の程よろしくお願ひします。授業全般は面白くためになりました。(政経学部4年 Y)

明治大学の蔵書は194万冊...ひとえにその数字をきいて驚かない人はいないだろう。関東大震災後、70冊余りから復興してここまでの数字にたどり着くには先人達の並々ならぬ努力があったに違いない。図書館の予算は7億円、そのお金は私達の授業料である。是非とも今後も図書館を効果的に利用できるようにしたいものである。(文学部3年 I)

山手コンソーシアムは、これから活用していくつもりです。海外の図書館も条件次第では使えるということは、驚きでした。また、

父が国会図書館を活用しているので、私も活用したいと思っています。駿河台の図書館はとてもいい環境です。しかし、和泉は少し使いにくい。和泉・生田は是非リニューアルしてもらいたいと思います。私自身、本はたくさん読むのでこれからも図書館を有効に活用していきたいと思っています。

(法学部4年 K)

パソコンで実習をする時にパソコンが足りていなかったりしたことがあったので、二人に1つを徹底して欲しかったです。パソコンの検索のところをもう少しゆっくりやって欲しいと思いました(詳細検索)。あと、内容が少々専門的な気がしました。

(法学部3年 K)

図書館の知らないところが数多く知ることができて、もっと活用してみようとする気になった。駿河台図書館は落ち着いて資料探しや本を読むのに適した環境であったのに対して、和泉はなかなか落ち着いて利用できる環境ではなかった。1・2年生の頃は勉強しようとしても、和泉だとそのような環境でなかったため勉強に打ち込めることができなかった、と感じている。たまに訪ねて行った時によく感じるので、和泉の雰囲気をしっかりすることでこの大学自体のクオリティーが向上すると思う。この授業は本当に為になって、受講してよかったと思っている。(文学部3年 S)

前期、この授業はパソコンを使わせてくれて、とても独創的でした。実際に口だけの説明ではなくて、説明と同時にそのことを実行できたのは、分かり易かったです。あと、明治は文化の中心地に「でん！」と構えているというのは同感でした。都心に居座りつけてもらいたいです。(文学部3年 Y)

これまで、自分の専門分野の本ばかりで、その他のジャンルの本にはほとんど目もくれませんでした。古書店などでも同様にこの明治大学の立地条件を余りいかしていなかった気がしました。しかし、講義を聴くにつれて電子図書館の利便さ等を知ることができ、レポートなどに役立つしどんどん利用していきたいと思っています。あと、少し遅れると座れないのももっと大きい教室にしてほしい。

(文学部3年 O)

色々図書館の使い方やインターネットの検索について、非常に勉強になった。パソコンの数が一人1台分まわってくるようにした方が良いと思われる。一人1台とは言わなくても数をもう少し増やしても良いのでは？

(法学部3年 H)

「図書館活用法」(前期)を振り返ってみて、情報化社会の現代でただ本を借りるだけでなく、様々な情報を引き出せる図書館は必要だと思った。その点において、明治大学図書館はきれいだし、環境も整っているからいいと思う。授業では、本当に活用方法を学べたと思うので良かった。実習も役に立ったと思う。

(政経学部3年 S)

図書館の有効な活用の仕方がわかる講義だと思った。この講義は実際、最初にやってもらえると図書館を早く使いこなせるかと思うので、早くしてもらいたいと思います。

(法学部4年 K)

半期に渡って図書館の利用について教わってきた。図書館というと何だかつつきにくく、本は数多くあるもののなかなか目的のものにたどり着けないような状態であった。特に最近インターネットで簡単に資料を探せることから、ますます図書館から離れていたが、この講義で詳しい利用法を知ることができて良かった。また、インターネットについても、有用な検索方法について学ぶことができ、私達学生にはかなり有益な授業だったと思う。今日の授業で改めて明治大学の立地条件の良さを再認識しました。

(経営学部4年 K)

今日はどのようにして大学内外の図書館を有効に活用すべきか、というまとめのような講義だった。今まで、大学に3年間と少し在籍しているのにも関わらず「図書館を有効に活用していなかったかな」と反省してばかりの授業だったが、たくさん学ぶことがあって楽しい授業だった。

(法学部4年 O)

文字、印刷物の歴史の話はとても興味深かった。神田の古書店街を探索したくなった。

(法学部3年 I)

バビルスといった昔の文字・印刷物には興

味がある。図書館のギャラリーの展示は、後では是非見てみたいと思う。神田の古本屋街は未だに散策したことがなかったので、この機会にブラブラと散策し知的好奇心を刺激してみたいと思う。「図書館活用法」の授業は今まで自分の知らなかった活用法を学ぶことができたので、有意義であった。(法学部3年 O)

「図書館活用法」はもっと早い段階(1・2年生)の時に履修していたら図書館を今以上に利用していたと思う。また、教室が少し小さすぎたとも思います。今日の講義では、考古学に興味があるのでパピルスなどは、是非見てみたいと思います。(法学部4年 K)

図書館に行っても、目当ての本がなかなか検索できず、結局借りることを諦めてしまう事もあったが、この授業でいるんな方法を知って、より細かく検索できるようになった。また、図書館以外にもインターネットで検索したい事柄を見つけるにも役になっている。日常生活で為になった珍しい(笑)授業だと思う。(法学部3年 Y)

書庫に入れない大学もある中で、それが許されている明治大学の貴重な書物を自分の目で見たいと思った。何度か書庫に入ったが、探している本だけにしか注意を払っていなかった。これからは他の本にも目を向けたい。(文学部4年 K)

国会図書館や他大学図書館にも行ってみたい。パソコンを使った実習の授業が何回かあったが、人数が多いし、台数も少なかったので、効率が悪かったと思った。(経営学部3年 I)

図書館の変化の様に驚くと共に、図書館への考え方が変わった。学問に必要な資料の閲覧という機能はもちろんだが、文化の保存、地域や他機関との提携によって知識を共有しようという目的は素晴らしいことだ。社会に出てしまったら図書館から離れてしまう人も多いとは思いますが、知への欲求を持ち続け図書館を活用し続けたい。(法学部4年 S)

全体を通じて、検索エンジン等の実習が多かったように思う。検索の仕方については色々参考になったが、図書館の授業という

よりはインターネットの講習のような色彩が濃かったように感じます。もっと図書館についての様々な側面について講義があっても良かったのではないかとと思う。(文学部4年 K)

今まで知らなかった図書館を知ることができた。実際にコンピューターを使って授業をした方が面白かった。図書館では電子資料で古代の道具などを見る事ができて、まるで博物館のように楽しむ事もできるという事を知った。中央図書館にある地図室では、本物を目の前で見る事ができて面白かったです。(短大2年 S)

私は、図書館をテスト勉強をする場としてしか利用していなかったのですが、この講義のおかげで図書館の様々な利用法を知ることができ、うれしく思います。私個人の要望としては、図書館にあるパソコンの台数をもっと増やして欲しいと思います。利用しようと思っても、いつもなかなか使うことができません。(法学部4年 T)

図書館というものは身近な割には、その活術や詳細がはっきり示されていない気がする。この類の授業は今後も必要だと思う。特に卒論を控えている学生にとっては、とても有意義な授業だ。ただ、もう少し大きな教室が必要だろう。パソコンの実習の方法ももう少し工夫が必要だと思う。(文学部4年 Y)

[2002年度 後期 和泉キャンパス]

半年であったが、図書館活用法に出席して良かったと思う。今までは、図書館で勉強したり、本を借りたりしていたが、図書館とはもっと深いものであると感じた。今までの授業を生かし、データベースを利用したり、書庫を利用したり、また、山手線コンソーシアムや電子図書館を使ったり、もっと自分の知的学習に役立てていきたい。

(政経学部2年 K 男性)

授業を行ってくれた図書館の方が先生ではないのに、とても講義が聞きやすく驚きました。スクリーンを使用し、カラーできちんとしたレジメを用いるなど、教材の質の高さも感動でした。インターネット検索のやり方など、知らなかったことが多く、とても勉強になりました。何よりも先生方が皆さん本をとて好きだ、という熱意が凄かったなという印象を受けました。(商学部2年 K 女性)

今まで何気なく図書館を利用していたのですが、12講まで受けてみて新しい発見がたくさんあり、今まで知らなかった様々な情報を得ることができて、とても満足しています。そして、今まで以上に図書館を活用していこうと思っています。中央図書館はまだ利用したことがないのですが、本の数がすごく多いことが分かったので、専門書を探す時に行こうと思っています。コンピュータネットワークと図書館の関係についても、とても勉強になりました。(商学部2年 S 女性)

今日授業では明治がいかに良い場所にあるかが良く分かった。確かに、都心でゴミゴミしているという批判もあるが、多摩地区にあったらあったで、通学には不便。無機質というのもうなずける。混沌から文化が生まれるというのもその通りだと思った。いい点・悪い点両方あると思うが、メリットの方が明治には大きいと思いました。(政経学部2年 S 男性)

図書館の授業を通して、いかにすれば自分の手に入れたい本を確実に、しかも素早く手に入れることができるかということを中心に学ぶことができた。すべての授業が有意義で一つを選ぶということはできません。すべてがベストだからです。特に今日の授業

は、まとめとしてふさわしい内容であったと心からそう思います。(商学部2年 E 男性)

「図書館活用法」は自分が思っていたよりもためになる講義だった。今まで大学の図書館はちょっと抵抗があって使っていなかったけど、とても便利なものだということが分かった。特に印象のあった講義は、山手線コンソーシアムとポータルサービスの講義だ。この講義の前、探していた本がどうしても見つからなかったのだが、家のパソコンで山手線コンソーシアムを使ってみたら、法政大学市ヶ谷キャンパスにあったため、入手することができた。しかも、予約や延長も家のパソコンでできるし、本の貸出状況までわかるので、すごく便利でよかった。このポータルサービスはもっともっとよいものになっていくといいなと思った。あと、山手線コンソーシアムで借りた本をどの大学でも返却可能になるといいなと思いました。(政経学部2年 K 女性)

今まで生きてきた中で、図書館を活用したことは全く無かったです。イメージは、書物が多いだけで探すのも大変だろうし、面倒くさそうというものでした。しかし、毎回の講師の実体験や細かな資料のおかげで、意外と自分の身近な所に図書館があるのが分かった。特に、図書館の機能に触ることによって、簡単に調べたいことが分かって非常に便利であると感じた。今日先生のおっしゃっていた親の為(お金を払っているのに)に図書館は是非活用しなさいという事の意味と大切さが分かりました。(政経学部2年 M 男性)

全体的に見ると、内容がかぶっていることが多く、12講もやる必要は無いように思える。特に後半の図書館員の講義は毎回同じようであった。それは、講師間の連絡が薄かったのではないかと思われる。また、図書館を利用してのレポート作成方法の講義が、一回だけであったのは残念である(一番私が知りたかったことであったため)。

(政経学部1年 H 男性)

正直な所、単位あわせのために取った図書館活用法の授業でしたが、思った以上に役に立つものだったと感じています。実際、この講義で始めて知ったポータルサービスなど、使ってみて便利な機能も知らない人は

まだかなり多くいると思うので、単なる知識としてでなく実践的に活用していきたいと思いました。また、他の授業と違い、毎回違った先生の講義が聴けたので飽きがこないのも良かったです。(商学部2年 H 女性)

図書館活用法の全体的な印象としては、今まで身近にあってもあまり利用しなかった図書館の存在や大切さを、改めて気づかせてくれる講義がとて多かったです。特に印象に残ったことは、OPACの使い方を間違えていたので、正しい使い方を教えて下さった講義が印象に残っています。インターネットで明治大学のサイトを開いてのポータルサービスの利用は、本当に画期的で家から学校まで遠い私が自宅で簡単に本の延長や予約をできるという点がとても便利だと思いました。2年近くこのサービスを知らなかった私は本当に損をしていたと思います。けれども、今回この図書館活用法の講義を受けて今まで知らなかったことをたくさん知ることができたので、とても良かったと思います。

(商学部2年 T 女性)

「図書館活用法」と聞いて「一体どんなことを学ぶのだろう、もう知っているのに…」などと思っていたが、色んな講師の話聞いて今まで全く知らなかった図書館が見えてきた。普段はごくたまに本を借りに行く位だったが、使い方によっては、自分の学生生活をより充実した学生らしいものにするのに大いに役立つ機関だということが分かった。印象に残ったのは今、インターネットに興味があるため、そのことについての講座が印象的だった。(政経学部2年 F 女性)

今の明大生(というか日本の大学生?)の現状として、図書館の利用方法がよく分からず図書館を有意義に活用できていない、というのは事実だと思われます。その意味で、大学1・2年の教養課程の時期に「図書館活用法」の講義が行われるのは大変良いことだと思います。しかし、残念だったのは「活用法」という名がついていながらも講義の形式は講師からの一方的な説明というもので、実習が全くなかったことです。履修者が多いなどの色々な難しい条件もあるかとは思いますが、週に何回か講義を行う

などして、少人数での実習を含んだ講義を行うべきだと思います。(商学部2年 T 男性)

最初この講義を受講しようと思った時、「図書館活用法」といっても今まで普通に図書館を利用していたのに他にどんな活用方法があるのか疑問に思っていた。実際講義を受けていくにつれ、今まで知らなかったこと、例えば検索ネットワークだったり山手線沿線の大学図書館なら貸し出しもできる「山手線コンソーシアム」など、新しい情報をたくさん吸収することができて、とても充実できました。それに、図書館で働いている人の授業も熱心だったし、スライドとか使っていて分かり易かったのもとても良かったです。図書館は意外と奥が深いことが分かりました。

(法学部2年 M 男性)

私は、この図書館活用法講座を学び、とても多くのことを学ぶことができたと思う。実務的な面、例えば検索の仕方や山手線コンソーシアムなどはもちろんのこと、私の図書館に対する考えを大きく変えてくれた。その中でも第一回目の講師の方がおっしゃった「図書館を学んでいない者は学問を学んでいない者と同じ。図書館学という学問があるくらいだ」という言葉が強く印象に残っている。また、今日の講義で自分がとても恵まれた環境にいる事を実感した。とても素晴らしい講座だったと思う。しかし、一つ残念だった事は、遅刻者の扱いである。私自身は1回の欠席を除きすべて授業が始まる数十分も前から来ているのに、一時間も遅れて入ってきた人と同じ評価になってしまうのが納得いかなかった。今後はそこを改善して欲しい。

(商学部2年 M 男性)

「図書館活用法」という題名であったが、その中心は『情報をいかに扱うか』であり、内容はより興味深いものであった。特に、第11講の梅本先生のお話は、研究者としての視点から図書館を述べており、他の講義では絶対聴けないものだった。この講義がきっかけで中央図書館の書庫へ用もないのに向かってしまった。(文学部2年 Y 男性)

普段は本を借りたり、読んだりする場としてよりも自習の場として図書館を使うの方が多かったのですが、より身近に図書館

が感じられました。毎回違う先生方が講義をして下さって、それぞれの角度から情報と図書館について学び取れることが多く、刺激的でとても興味深いものでした。先週の講義では、論文・レポート・学術論文がどういうことを意味するか初めて身をもって分かりました。今日の講義では、一つ一つわけて説明して下さい、これからどのように図書館を活用するのが有意義なことなのかを吸収することができました。(法学部2年 K 女性)

図書館活用法全体としては、図書館職員による講義や色々な学部の先生の話や聴く事ができ、同じ事項に関して様々な意見を聞くことにもなったので興味深かった。今日の講義に関しては、粘土板やパピルスのようなものを明治大学の図書館で所蔵しているのをはじめて知ることができたので良かったと思う。(文学部2年 K 男性)

普段テストやレポート以外でほとんど図書館を利用しなかったが、この講座を受ける事によって知の宝庫である図書館、また色々な文化や情報が詰まっている図書館の魅力が分かった。また、授業ではOPACの利用に触れ、学生番号を入れるだけで簡単に調べたい図書にアクセスできる便利さを覚えました。それと、図書の利用には根気が必要であるという事を覚えました。パソコンで調べるにあたって、細かい部分まで入力しないと確実に探している本が見つからないと分かりました。図書館には歴史上貴重である本がたくさんあることを知りました。それと、「知の宝庫」という言葉を知って図書館の奥深さを感じました。学生である以上、たくさんの文献に今のうちから触れていかなければ、という少し焦りを感じました。(商学部2年 Y 女性)

スクリーンを使っていて、黒板よりきれいだし見やすく良かった。私は図書館を全然知らないで生きてきて、今まで損をしてきたと思います。この授業で図書館のすごさを感じました。一番最初の授業が良かったように思われる。色々発見した事があったので。今日の授業では、特に明大図書館が誇れる事が良く分かり勉強になりました。また、年間明大図書館は7億円もお金を使っていると聞いてビックリしました。これからどんどん利用していきたいと思いました。毎回先生が変

るので、慣れない為、とっつきにくいですが、新鮮さがある良いけれど、私は同じ先生が半年間やった方が良いと思います。その方が落ち着いて取り組みます。(商学部2年 I 女性)

毎回講師の方やテーマが変わるので、興味が尽きる事がなかった。図書館の利用法に限らず、インターネット情報や印刷の歴史を学べてよかった。どの講義も分かり易く素晴らしかったが、文献所在のつきとめ方の講義はすぐに実行に移せたのでとても為になった。明大図書館のサービスの充実さに驚いた。印刷の歴史に興味があったので、映像で昔の印刷物を見る事ができて感動した。また、遅刻者が多いと感じた。(文学部2年 S 女性)

最初の頃は、図書館の活用の仕方は全くといっていいほど知りませんでした。けれど、この授業の全体を通して様々な形で図書館を利用する事ができると思いました。特に、明治に置いていない本が他大学においてある場合、提携している大学であれば気軽に借りに行けるということには驚きました。また、学生自身が書庫に入れるということにも驚きました。一度でも書庫に入ってみて古い本を実際に手にとって見たいと思います。(政経学部2年 T 女性)

この授業を受ける前は、ただ「図書館の使い方を説明してくれる授業かな」と思っていたが、思っていたよりもずっと奥の深い内容だった。どの授業も為になるものだったが、私はポータルサービスの授業が特に興味深かった。このようなサービスがあるとは、この授業を受けるまで全く知らなかった。今では、自宅のパソコンから、探している本の検索をして貸出中の時は予約をして・・・と、図書館がとても身近になった。明治大学図書館は、とても利用しやすいと思った。そう思えたのもこの授業があったからである。これからはここで学んだ事を無駄にしないようにどんどん図書館を利用したいと思う。(文学部2年 T 女性)

図書館活用法の授業を受けて、大学における勉強と図書館との密接な関係をより一層感じた。高校の時などは違い、レポートなどで図書館の資料を参照する事が必ずある。図書館にある莫大な資料の中から自分の必要

とするものを迅速に見つける事は、知識がゼロでは困難な事が多い。この講義をうけて、様々な検索方法などを学び、以前よりも早く求める資料にたどりつけるようになったと思う。これから、ゼミなどで図書館を利用する事もますます増えると思うが、この講義で学んだ事を活かしていければ良いと思う。

(法学部2年 O 男性)

図書館活用法の講義は非常に役に立った。大学と小中高での学習方法の違いに戸惑い、何をして良いのか分からなかったが、講義の中で参考図書の使い方、文献の探し方が学べて勉強のやり方というもの、だんだん分かるようになってきた。さらに、それに伴い図書館を利用する機会がとて増えた。1年生の必修授業だったら絶対良いと思う。大学でどんな事ができて、学べるのかを知らないから、いわゆる「レジャー化」してしまうのではないかと考える。(文学部2年 M 女性)

私は司書課程を履修しているが、司書という職業観点から見た図書館ではなく、学生が勉強していく上で図書館情報をいかに利用するかという点を学ぶ事ができ役に立った。また、図書館に限らず、インターネットの利用方法も多く取り上げられていたのが良かった。はじめの方、講義は体験談みたいなものでつまらなかったが、後半は人が資料を探すのはどのような方法があって、その方法にどういう効果があるのかが分かって良かった。それ以来、私は本を探す時、すぐにOPACを使わず棚で見てみる作業をしている。また、ポータルサービスを利用するようになった。授業を受けなければ利用しなかったであろう。今日は本(紙)の歴史について、少しだけみる事ができて面白かった。インキュナブラを是非見てみたいと思った。(文学部2年 S 女性)

図書館活用法は、僕にとって図書館に対する関心を大いに変えました。学習と図書館は結びつくもので、毎回講義で「授業料を払っているのに図書館を利用しないのは損だ」と講師の方はおっしゃいます。僕は損に気づきました。図書館の利用など考えてもみなかったのです。図書館に対する興味を感じただけでもこの授業は大きな収穫と言えます。

(政経学部2年 W 男性)

私がこの図書館活用法を履修した理由は、もっと自分の知らない図書館の事について知ることができると思ったからです。しかし、実際は本の借り方や検索のやり方など当たり前前の事ばかりであり勉強になりませんでした。その中でも、もちろん自分の今まで知らなかったこともありました。それは「ポータルサービス」です。これは家にいながら延長したり取り寄せをしたりできるので、とても便利だと思いました。そして、この図書館活用法を通して一番勉強になったのは、もっと図書館を利用しようと強く思えた事です。これからもっと図書館を充実させて欲しいです。私たちもしっかりとマネーを守って気持ちよく利用したいと思います。

(商学部2年 O 男性)

本を読むことが好きではなかった自分でしたが、今年になってこの図書館活用法の授業をとって、色々な事が分かりました。単純に和泉図書館はそこだけで機能していると思っていましたが、中央や生田図書館とも常に連携していて、他大学とも山手線沿線コンソーシアム等で密接に関係を持っていることには驚きました。その他には、百科事典などの調べ方も自分にとっては良い経験となりました。今までは、普通にインターネットなどで検索するだけでしたが、図書館へ足を運べば膨大な情報と出会う事ができる。そのことに気づけただけでもこの授業をとって良かったと思います。残りの大学生活でもっと図書館と仲良くなりたいです。(政経学部2年 S 男性)

私は11講のレポートに関する講義が一番印象に残りました。どのような視点がレポート(論文)に必要なのかとても参考になりました。今後様々な分野でレポートを書く上でこの講義を活かしていきたいと思いました。今まで自分が考えていた以外に図書館には様々な使い方があることを知りました。図書館、インターネットなど資料の探し方も多様で、どのように必要な資料を見つけ出すのか、とても勉強になりました。(法学部1年 M 女性)

図書館活用法の講義を受けて様々なことを学んだ。OPACなど今まで聞いた事が無い言葉も出てきて非常に興味が持てた。また、図書館の本を管理するのに7億円という莫大な金額がかかるという事実も驚きであっ

た。授業の反省点としては遅刻者が多かった事だと思う。(商学部2年 S 男性)

スライドやレジメなど見やすく分かりやすい資料を用意してもらえた事が良かった。これからは頻繁に図書館に行ってみようという気持ちになった。一度、掲示もなく先生がいらっしゃらなかった日があった。(文学部2年 T 女性)

図書館にレファレンス係があるのを初めて知って、さっそく利用してみた。色々と感じがけないことを知ることができて良かった。中央図書館に行ってみたくなった。雑誌などの最新情報も見てみたい。(商学部1年 S 男性)

自分は普段から特に市立の図書館を利用しているので、大学の図書館の便利さを知ることができた。貴重な資料もインターネットを通じてなら見ることができるということに興味を覚えた。遅刻者にはもう少し厳しくしても良いと思う。(政経学部1年 N 男性)

図書館活用法の講義を受け、改めて図書館の存在する大切さが分かりました。今までに何気に図書館へ行っていました。インターネットを使えるなどもっと大いに利用できる事を知りました。図書館の前をただ通過するのではなく、一日一度は足を踏み入れることで新発見ができるのではないかと思います。図書館を利用して、もっと知識人になりたいです。(政経学部2年 K 女性)

図書館について、この講義を聞くまでは知らない事が多少あった。電子図書館の利用法が分かったので今後利用してみたい。レポートを作成する際の図書館の利用方法を学んだので、今後に活かしたいと思います。(商学部2年 T 男性)

図書館が壮大な知の宝庫だとは思わなかった。この図書館活用法の講義を通じて図書館の利用方法がとてもよく分かった。これからは頻繁に利用したいと思いました。今回の講義は私の知的好奇心をくすぐるとも良い授業でした。(商学部2年 Y 男性)

正直知っている事ばかりかと思っていたが、とても奥深い内容で参考になった。神田

は古本屋の宝庫だとは知らなかったので今度行ってみようと思った。授業中の私語の多さはかなり迷惑だった。(政経学部1年 T 女性)

全体的に明治大学図書館だけでなく、他の図書館などの知らなかった事が良く分かった。それに最近の図書館はインターネットやパソコンなどを用いて、とても使いやすいということ、また上手なレポートの書き方というのも参考になった。少しは知っていたが、きちんと要点をつかんでいないと書いても読んでもらえないと言われた時は気をつけなければいけないと思った。とても楽しかった。ためになる授業だった。(政経学部2年 H 男性)

一番印象に残ったものは、論文レポートの書き方の講義だった。レポートは学生生活で必ず書くものだし、提出する回数もとても多い。レポートのみで成績がつく科目もあるので、とても興味を持った。これからはここで学んだ事を活かし、上手なレポートを作っていきたい。図書館活用法で改善すべき点は、思い当たらない。スクリーンを使っただけの授業は面白いものだった。(政経学部1年 Y 女性)

山手線沿線コンソーシアムというのは、ただ提携大学の図書館の本が借りられるだけなのではないでしょうか？提携大学の授業料(施設費)は払っていないので、自習室を使用する事はできないのでしょうか？それと山手線沿線コンソーシアムを提携している大学のうち東洋大学は1・2年次のキャンパスは埼玉県にあるのですが、そこにある図書館は山手線沿線ではないので、利用できないのでしょうか？(法学部2年 I 男性)

私の身近にある図書館であるが、全12回を通して、図書館の奥深さに驚いた。1大学の図書館の蔵書ですら膨大な数なのに、ネットワークを通して山手線沿線の大学と連携しているのには、魅力がある。まさにハイテクとローテクのコラボレーションである。今回の授業は、図書館の魅力に多くふれ、早速図書館に行こうとさえ、思うのである。(政経学部2年 O 男性)

この講義は独特な感じでもとてもためになったと思います。図書館の便利さや、いろいろな書物を勉強できてとても良かったと思いま

す。図書館とは歴史文化・芸術、科学技術などを集めた知識でありまさしく「知の宝庫」である。この知の宝庫である図書館を多に利用したいと思います。(政経学部2年 K 男性)

先生によって面白い授業と面白くない授業の差が激しいです。面白い先生だと話も聞いていて頷けるしためになるけれど、ただプリントを棒読みしている先生の時は生徒はみんな寝ていてやる気もなく見えます。あと遅刻者が多くて目障りです。やる気のある人たちにも迷惑がかかるのでやめてほしいと思います。印象に残ったことは、ポータルサービスのことです。この授業を受けるまで全く知らなかったのですが、これから活用できそうです。(商学部2年 Y 女性)

今までほとんど図書館を活用できていなかったのが、とても無駄な時間を過ごしてきたことが分かった。今の図書館はコンピューターで管理されていて講義やレポートを通し、とても便利なものになったと感じた。これからは積極的に図書館を使っていこうと思う。第5講の浮塚先生はとてもわかり易く図書館の機能を説明されており、図書館を使いたくなった。授業の途中から人が入ってくる度、授業が中断されることがあった。20分以上遅刻したら、もう出席をとらない方が良いと思う。先生の気が散ると思うし、受けている方も良い気分がしません。(政経学部2年 W 男性)

私は今までほとんど図書館を使ったことがなく、使ったとしてもせいぜい自習室として使う程度だった。だが、この図書館の授業では、効率の良い本の探し方、図書館での成功例、失敗例や面白そうな本、文献の紹介と、様々な角度から図書館についての面白さを伝えてくれたのでとても図書館について興味を持つ事ができた。今まではほとんど行かなかった図書館に自然と足を運ぶ様になった。これからも、この授業で習ったことを活用し、図書館で様々な本を読みたいと思う。(政経学部2年 T 男性)

毎回講師の方が違うので同じ事項でも視点が違い、大変興味深かった。明大図書館が行っている数々のサービスの中でも、意外に知らないものが多く、よく図書館を利用して

いるつもりであった自分としては驚きであった。特に、レポートは頻繁に書いているため、レポート作成に役立つ図書館サービスの活用に関する講義については興味深かった。

(文学部2年 N 男性)

非常に印象に残ったことは明大の戦後時点の本の冊数と他の大学の図書館予算との比較である。明大の本の冊数が大火事で燃えてしまい70冊程度しかなくなってしまったというのは非常に悲惨な事態である。その後図書館をたくさん購入し現在の状況に至ったということは素晴らしいことであると思った。もう一つは他の大学の予算である。慶應大学の予算の高さは計り知れないと思った。明大と同じ年間予算で、一冊の本を買うということは信じられないことだ。7億の使い道が少し違うと思った。(政経学部2年 I 男性)

ネットのHP上で、借りた本の返却期間をのぼせることを知らなかったのができると知って驚きでした。それと講師の方が海外に留学した際の図書館の話や、修士号と博士号の話など、講師の方々の実体験エピソードなんか面白くて頭に残っています。今日の講義を聞きながら、以前シェイクスピアの『ハムレット』の英語版を買って難しくて投げ出したままなのを思い出しました。いつかは読もうと思っています。いつかの講義でgoogleとyahooの検索エンジンの違いが書いてあったと思うのですが、難しくて良くわかりませんでした。もっと詳しく説明してほしいように思います。(文学部2年 S 女性)

全体の印象としては「けっこうルーズな授業」という印象が強いですが、僕自身は殆どの講義で最初から出ていたのですが、終了10分前くらいに来てOKのような雰囲気がありました。というわけで改善すべき点は出席において、もっとタイトにするべきだと思います。講義の内容についての感想は「思ったより面白い」ということです。はじめの頃の講義では図書館についての知らないことを多く知ることができたし、後半の講義では、図書館に限らず、様々なためになることを学ぶことができました。(政経学部1年 M 男性)

「図書館活用法」を受講して最も有用だと思ったのは、「データベースの活用」であ

る。特に「雑誌論文記事検索」の有用性には驚かされた。私もレポートを書く際に積極的に活用しているが、「雑誌論文記事検索」の最も優れた点は以下の2点があげられると思う。Q 図書と異なり最新の情報が検索できるQ 論文タイトルといった詳細な検索ができる。今後も内容の濃いレポート、さらには卒業論文作成のために積極的に「雑誌論文記事検索」を活用していきたい。半年間大変お世話になりました。(政経学部2年 F 男性)

今まで大学図書館というものがレポートを書く際の資料を検索する場としてしか捉えていなかったが、この講義で図書館が社会的に大きな役割を果たしているということがよくわかったと思う。現在日本では、メディアに取り上げられている本は売れるが、全体の売上げは減っていると言われている。こうした動きの中で図書館は迎合せずに、後世まで役立つような図書を所蔵すべきだと思う。

(文学部1年 S 男性)

何度目かの授業で文献を探したり、ネットを使い情報を得る時の心構えについて、根気と工夫、又調べたいものを明確にしてから調べることが大事である、ということが、この講義で得たことである。私がこの講座を通して知りたかったのは、数ある図書やネットの情報の中から、如何にして自分の欲しい情報を得るかということだったが、そんな都合の良いことは不可能で経験を通してその技術を磨いていくしかないということだった。全体を通して、図書館職員の方々の図書館をもっと利用して使おう、という気持ちは良く伝わってきた。(法学部1年 Y 男性)

明治大学の図書館の利用価値がわかった。もっともっと図書館を活用しようと思った。最後の講義が一番印象に残りました。

(商学部2年 E 男性)

留学生としての私にとっては、異国で勉強や研究することが難しいと思います。この国の文化、歴史、社会さらに経済、産業などまったく知らない分野とも言えます。図書館は、これらを知るための優れた方法と私は考えています。明治大学は長い歴史を有する蔵書豊富な図書館なので、明大の図書館が私の知的根源となっています。最初の頃、図書館

に対する印象は、本を閲覧したり、貸出したりすることだけだと思っていたけれど、この講義を受けてから更に図書館がそれ以外の機能を持っていることが分かってきました。それは私にとっては大いなる収穫だと思います。特に電子図書館に関する講義は図書館間のつながりだけではなく、情報に關与する機関や国内外の知的機関につながることで、今の勉学でも、今後の研究でも、とても大切だと思います。(経営学部1年 O 女性)

印象に残った事は、電子図書という新しい図書形態。山手線コンソーシアムという8大学協力による図書館リンク。改善すべき点は、次の講義に提出するレポートという形式は、先生が変わってしまうし、次の講義を何らかの理由で休まなければならない時に2回分欠席扱いとされてしまう点。この講義の受講後、近寄り難いと思っていた図書館に課題等以外でも行ってみようという気分になった。

(法学部2年 T 男性)

教員だけでなく、普段はあまり話を伺う機会のない司書さんなどの話を伺うことができて良かったです。(商学部2年 H 女性)

全部で12回講義を受けてきましたが、改善すべき点がとても多いと思います。毎回先生が変わるということは、図書館に対する様々な考えを聞くことができ、良かったと思いますが、逆にそのことが欠点でもあり、同じことを何度も説明していたという点が見られました。しかも構成が、前半は図書館職員、後半は各学部の教授の講義であれば、前半のうちに図書館の知識の基礎を固め、後半でそれを発展させ、理解がより深まったと思います。(文学部2年 M 男性)

図書館活用法の講義を通して、どれだけ図書館が便利で本が素晴らしいかを実感しました。図書館だけでなくインターネット上の情報の探し方やインターネットを使ってのコミュニケーションなど、これから社会に出てからも活用できる内容ばかりでした。また、毎回先生も変わって授業も楽しく聞く事ができて、大変ためになる授業でした。

(商学部4年 I 男性)